

幼児のシャボン玉遊びの指導

井戸 和秀 ・ 門松 良子*

シャボン玉遊びは、幼児が興味をもって取り組む遊びであるため、毎年ほとんどの園で行われている。しかし、幼児がもっている旺盛な知的好奇心を発揮させ、幼児の知的発達を促すような遊びになっているかは疑問である。そこで本研究では、M児の2年間（2年保育4歳児、5歳児の時）のシャボン玉遊びの指導を通して、幼児が何を学んでいくのかについて検討した。その結果、幼児はシャボン玉遊びの中で、科学的知識や道具の操作、仲間との共有など、多くのことを学んでいることを明らかにした。

Keywords : シャボン玉遊び, 知的好奇心, 人間関係, 遊びの自由

1 研究目的

本研究では、M児を中心とした2年間（2年保育4歳児、5歳児の時）のシャボン玉遊びの指導を通して、幼児が何を学んでいくのかについて考察をする。

シャボン玉遊びは、幼児が興味をもって取り組む遊びであるため、毎年ほとんどの園で行われている。しかし、幼児がもっている旺盛な知的好奇心を発揮させ、幼児の知的発達を促すような遊びになっているかは疑問である。

各園の指導計画の中では、水遊びの時期にシャボン玉遊びは位置付けられていることが多い。そして、その遊びの内容、指導方法は様々である。水遊びの一貫として、保育者が環境を設定し、そこで子どもたちがシャボン玉をストローで膨らませて、シャボン玉が作れるようになると、シャボン玉遊びを経験したと捉えられがちである。また、毎年水遊びの時期になると、年齢の違いによって環境設定を変えたり、前年の経験を生かして幼児の実態に応じて環境設定を変化させたりすることなく、いつもと同じ環境設定で遊びが繰り返されることが多く見られる。大切なことは、指導計画通りに保育者が一方的に遊びの場を設定し遊ばせるのではなく、幼児の興味や関心により、どのように遊びを始めるのか、いつから遊びを始めるのかを考えることが必要である。毎年、繰り返し行われる遊びであるからこそ、保育者

が幼児に遊びを与え保育者の計画通りにするのではなく、遊びの中で幼児がもっている旺盛な知的好奇心を発揮させ、いかに多くのことを自分自身で学ばせるかが課題である。

ところで、シャボン玉遊びは、科学的な知識、道具の操作、仲間との共有など多くの内容が含まれる遊びである。つまり、シャボン玉遊びでは、シャボン玉液の作り方や性質、シャボン玉液とシャボン玉との関連、息の出し方や強さ、ストローの大きさや形状、シャボン玉を友達とどのようにしたら面白いかな等、多くの要素を子どもたちが考えなければならぬということである。一方、幼児にとっては膨らますことが目的であり、それが面白いから興味をもって繰り返し遊ぶのである。まさに「面白さの追求というのは、同時に子供にとっての重要な学びの過程であり、また学びの内容そのものでもある」¹⁾ (笠間, 1997) と言われる所以である。毎年行われているシャボン玉遊びの中で、幼児が考えたり試したりしながら、面白さを追求し、いかに多くのことを学んでいくかを検討することは、前述したように極めて重要であると言わなければならない。

なお、M児を中心として記録をしたのは、子どもたちがシャボン玉遊びをする中で、M児が中心となってシャボン玉遊びを展開していったからである。

本研究は、日本保育学会第57回大会で発表した「幼児が遊びの中で考えたり工夫したりする力を育

てる指導のあり方に関する一考察」(山口, 門松, 2004)を加筆, 修正したものである。

II 研究方法

1. 遊びの記録

1年目-M児(4歳児)が自ら選んだ遊びの時間に自分からシャボン玉遊びを始めた場面から, 継続してM児の遊びの取り組みをVTRに担任が録画した。3日目からは, 環境設定は担任が行った。

2年目-M児(5歳児)が自ら選んだ遊びの時間にシャボン玉遊びに取り組んでいる場面を, 継続してVTRに担任が録画した。環境設定は担任が行った。

対象児:M児 公立幼稚園2年保育4歳児の時
5歳児の時

記録法:場面見本法によるVTR録画

M児が遊んでいる場で担任がVTR録画をした。場面見本法を採用したのは, M児が主体的に自由に活動する場面であるため, 時間を設定することには無理があったからである。

期日及び時間:平成10年6月12日(金), 16日(火), 17日(水), 18日(木), 25日(木)
平成11年6月15日(火), 18(金), 19日(土), 各日にちの午前9時~11時

場所:園庭(晴天時)

保育室前テラス(雨天時)

2. 事例の検討(事例の詳細は巻末に掲載)

VTR録画をもとに分析・検討する。

III 結果及び考察

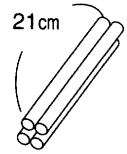
詳細なVTR資料をもとに, まとめたものを事例1と事例2として示す。

事例1 M児が4歳児の時のシャボン玉遊びの中で考えたり工夫したりした取り組みの様子

事例1-① 6月12日(金) 晴れ

M児が手洗いに置いてあった手洗い用の石鹸で石鹸液を作り, ストローを材料棚から持って来て, シャボン玉遊びを始めた。それを見た他の幼児も興味をもち, それぞれストローを持って来て一緒に遊び出した。M児が作ったシャボン玉液の入った容器を囲んで座り, 頭を寄せ合って遊んでいたの, 子どもたちがどのように遊びを進めていくかを見守った。

- ・M児が始めは1本のストローで遊んでいたが, ストローを4本にして束ねて吹く。
- ・M児のシャボン玉がよくできるので他児が「どうしてMちゃんだけ, できるんだろう?」と驚くと「ストロー4本, 4本よ」とストロー4本で吹いていると言う。
- ・また, 他児が「みんな出てこんで, Mちゃんだけ出てきたん?」と言うと「神様が, 私に魔法をかけちゃった」と言う。
- ・高い遊具の上にシャボン玉液を持って行き, そこで吹く。シャボン玉が風に飛ぶのを見る。



(資料 事例1-①下線部分を抜粋してまとめたもの)

M児が作ったシャボン玉液でみんなが遊び, 自分の液を作ろうとは誰もしなかった。友達と同じ物で遊ぶことが楽しいと感じている様子が見られた。ここでM児のシャボン玉がよく膨れることに気付いた幼児が, どうしてかと尋ねると, M児は「ストロー4本, 4本よ」と言った。このことから類推すると, M児はストローがたくさんだとよく膨れると考えているようである。しかし, 「神様が, 私に魔法をかけちゃった」など, 自分が働きかけた結果とシャボン玉が膨れる関係を考えていない様子も見られた。そして, 高い所で膨らますとどうなるかと, 園庭の遊具(プラスチック製の小山)の上で膨らませていた。そこではシャボン玉が風の影響でフワフワと飛ぶことに, M児は気付いていた。

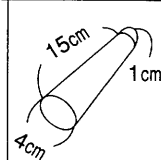
事例1-② 6月16日(火) 晴れ

15日からクラスのみんがシャボン玉遊びに興味をもち, M児を真似て自分でシャボン玉液を作って遊びが始まった。しかし, シャボン玉が膨れないと遊びをすぐに止める様子が見られた。そこで, 保育者がよく膨れるシャボン玉液を作り, 遊びの場を設定した。その場でM児を中心にして遊びが展開された。

シャボン玉液:洗濯用固形石鹸をぬるま湯で溶かし
2, 3日置いたもの

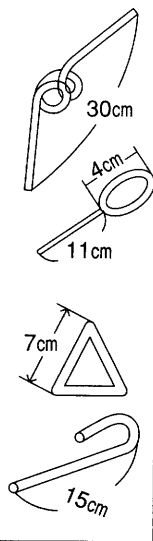
用具:曲がるストロー, 太いストロー, 糸巻き(プラスチック製, 細いもの), 糸巻き(プラスチック製, 先が開いたもの), プラスチックの小さい輪(柄の付いたもの), 曲がったストローなど

- ・糸巻き(細いもの)で吹く。糸巻きの中をのぞいて膜が張っているのを確かめてから吹く。できたシャボン玉を手で取ろうとする。
- ・曲がったストローを使って吹くのではな



く、曲がったところに膜を張って吹く。
膜が張っているかどうか確かめる。

- ・プラスチックの小さい輪で吹く時も、膜を確かめてから吹く。
- ・ストローを折り曲げて三角にして吹く。
- ・三角にしたストローを手で持って、回ったり、大きく手を動かしたりする。
- ・三角のストローに張った膜に指を入れてどうなるかを確かめる。
- ・ストローを折り曲げて自分の方に吹き出し口を向け、自分に向かってシャボン玉ができるように考える。空気の出る方にシャボン玉ができることに気付いている。



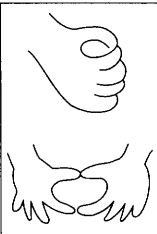
(資料 事例1-②下線部分を抜粋してまとめたもの)

シャボン玉ができるには膜が張っていないといけなことに気づき、膜が張っているかどうかを確かめながら吹いていた。そして、膜が張ればシャボン玉ができることが分かったと、ストローのように筒状になっていないものでもできるのではないかと考えている。そして、曲がったストローの曲がっている部分に膜を作ったり、ストローを三角に折り曲げて膜を張ったりしていた。口で吹くだけでなく膜が張っている物を空中で動かすと、シャボン玉ができるのではないかと考えて、三角にしたストローを持って回ったり、手を動かしたりしていた。また、吹く息の出る方向にシャボン玉ができるのではないかと考えて、ストローの吹き出し口を自分の方に折り曲げて吹いてみるなど、自分で考えたことを試している様子が見られた。

事例1-③ 6月17日(水) 晴れ

用具：曲がるストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒など

- ・手のひらを丸く筒状にして吹く。「ない時は、手でできる、ほんとはね」とストローでないものでもできることが分かる。
- ・手のひらを丸く筒状にして、その手を体の横で振る。
- ・両手の指で輪を作って吹く。



(資料 事例1-③下線部分を抜粋してまとめたもの)

膜の張るものを考えて、自分の手を丸くしてもできるのではないかと試していた。ストロー以外のものでもできることが分かったと両手の指で大きな輪を

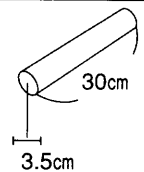
作るとどうなるか試していた。三角のストローに膜が張ると吹かなくても、それを動かすとシャボン玉ができることが分かった。そこで筒状にした手でもできると考えて、手を体の横で動かして試していた。

事例1-④ 6月18日(木) 晴れ

遊びの状況に応じて、担任が用具を少しずつ増やしていった。子どもたちがいろいろ工夫して用具を作ることができるように、廃材なども自由に使えるようにしておいた。

用具：曲がるストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯など

- ・紙の長い筒を持ってぐるぐる回る。
- ・筒にしっかりと液をつけると、たくさんシャボン玉ができると考えてしっかりとつけている。



(資料 事例1-④下線部分を抜粋してまとめたもの)

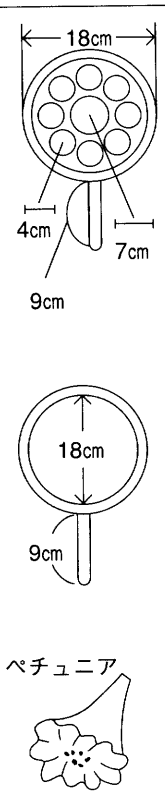
三角のストローや手のひらを筒状にして動かすとシャボン玉ができたので、今度は長い筒を手を持ってぐるぐる回り、シャボン玉を作っていた。また、液がしっかりとついているとシャボン玉ができると考えて、しっかりと筒に液をつけて膜を張らしていた。

事例1-⑤ 6月25日(木) 晴れ

それぞれの子どもたちが、いろいろと考えたり工夫したりして遊ぶようになってきたので、担任は遊びの場を広くした。用具もいろいろな種類のものを下記のように用意した。

用具：曲がるストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯、プラスチックの大きい輪（柄が付いたもの）、プラスチックの大きい輪（中に小さい輪がある、柄がついたもの）など

- ・プラスチックの大きい輪（中に小さい輪がある）を持ってぐるぐる回る。
- ・プラスチックの大きい輪（中に小さい輪がある）を持って体の周りで大きく動かす。
- ・プラスチックの大きな輪を、上から下にまっすぐにゆっくり動かす。
- ・プラスチックの大きな輪を持って動かさないでじっとしている。風が吹いてシャボン玉ができるのを見ている。
- ・ペチュニアの花をストローにして吹く。シャボン玉ができると「わぁー、やっぱりできた！」と言う。友達ができないのを見て「穴が開いてないからよ」と花のガクの部分を指で示す。「穴の開いたの見付けてあげる」と花を探しに行く。ペチュニアの花を取って来て吹く。「やっぱり、できたー」と言う。
- ・「これでもできるかな？」とそばに咲いていた朝顔の花を取って吹いてみる。「わぁー、できた！」と喜ぶ。



（資料 事例1-⑤下線部分を抜粋してまとめたもの）

プラスチックの大きい輪に膜を張り、ゆっくり動かしたり、大きく動かしたり、上からまっすぐに下に降ろしたりなど動かす速さや方向をいろいろ変えながら試していた。自分でペチュニアの花を花壇から取って来て、花をストローのようにしてできるかどうか試していた。そしてシャボン玉ができると「やっぱり、できた」と自分の予測したことが実現でき、納得したようである。友達がうまくできないのは、吹くところに穴が開いていないからだと考え、穴が開いている花を探して来て試していた。そして「やっぱり、できたー」と言い、がくの部分に穴が開いている花だとできることが分かった。そこで、そばに咲いていた朝顔の花でも試し、確認をしていた。自分の予測した通りになったので満足している様子が見られた。

実践例2 M児が5歳児になってシャボン玉遊びの中で考えたり工夫したりした取り組みの様子

実践例2-① 6月15日（火）晴れ

4歳児が石鹸液でシャボン玉を始めたのをM児が見て、自分が昨年経験した方法でシャボン玉をして、4歳児に見せていた。シャボン玉がよく膨れないと、M児が考えたことができないため、よく膨れるシャボン玉液を担当が用意し環境を設定した。

用具：曲がるストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）、プラスチックの大きい輪（柄の付いたもの）、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯など

- ・液をつけた手のひらの上に、ストローでシャボン玉を膨らす。
- ・手のひらにできたシャボン玉の中にストローをさして、シャボン玉の中にもう一つシャボン玉を作り二重にする。できたシャボン玉を握る。
- ・手にしっかりと液をつけ、左右の指で長い輪を二つ作り交互に吹く。
- ・両手をこすり合わせて液をしっかりとつけ、両手の指を開いて4本の指を付け、指の間に張った膜を吹く。



（資料 事例2-①下線部分を抜粋してまとめたもの）

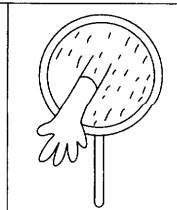
手にシャボン玉液がついていると、手のひらの上でもシャボン玉が壊れないでできることが分かり、液をしっかりとつけた手のひらの上で作っていた。また、シャボン玉にストローをさして二重に作ろうとしていた。そして、手の指をいろいろな形にして吹き、膜が張れば丸くなっていなくてもできるかどうかを確かめていた。自分なりに考えたことをいろいろと試している様子が見られた。

実践例2-② 6月18日（金）雨

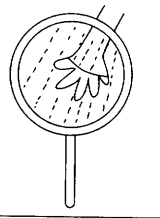
昨年の経験を生かして遊べるように、いろいろな用具を担当が用意し、環境を設定した。

用具：曲がるストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの大きい輪（柄が付いたもの）プラスチックの大きい輪（中に小さい輪がある、柄が付いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯など

- ・プラスチックの大きな輪に膜を張り、手に液をつけて膜の中に手を入れたり、出したりする。「魔法の鏡」と言う。
- ・腕の方までしっかりと液を塗り、肘の辺りまで膜の中に入れる。



- ・手に液をつけ5本の指を膜の中に入れて動かし、膜を壊さないように指を抜く。
- ・プラスチックの大きな輪に膜を張って、二つ向き合わせて持ち、そっと吹く。



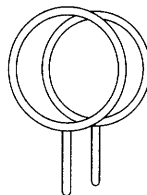
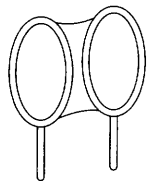
(資料 事例2-②下線部分を抜粋してまとめたもの)

プラスチックの輪に張った膜を壊さないようにするには、手にシャボン玉液をつけなければいけないことが分かり、手にしっかりと液を塗っていた。そして、肘まで入れたり、指だけ入れて動かしてみたりして、膜が壊れないかどうか試していた。膜が壊れないと「魔法の鏡」と得意になっていた。また、プラスチックの大きな輪を二つ向き合わせて持ち、そっと吹いてどうなるか試していた。

実践例2-③ 6月19日(土) 雨

用具：曲がるストロー、糸巻き(プラスチック製、細いもの)、糸巻き(プラスチック製、先が開いたもの)、プラスチックの大きい輪(柄が付いたもの)、プラスチックの大きい輪(中に小さい輪がある、柄が付いたもの)、プラスチックの小さい輪(柄が付いたもの)、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯など

- ・他の幼児とプラスチックの大きな輪を持って向き合い二つ重ねて吹く。二つの膜がくっ付くと、「なくなっちゃいましたね」と膜がプラスチックの輪の中から消えたことに気付く。そっと引っ張り膜を離すと、また膜がプラスチックの輪に戻ることに気付いている。
- ・他の幼児とプラスチックの大きな輪を持って向き合い、吹かないでお互いの輪をくっ付け、引っ張って離す。
- ・他の幼児とプラスチックの大きな輪を交差して、膜が張っている面を順に吹く。



(資料 事例2-③下線部分を抜粋してまとめたもの)

プラスチックの大きな輪を二つ重ねて吹いてみたり、交差させて吹いたりなど、考えたことを友達と一緒に試していた。そして、膜が伸びたり、膜と膜がくっ付いたり、離れたりなど、シャボン玉液の性質の面白さが分かり、その性質を生かして、いろいろな遊び方をしていた。

総括的考察

M児の2年間のシャボン玉遊びの取り組みを見ると、4歳児の時にはシャボン玉を膨らすことに興味をもち、用具をいろいろ工夫して使ったり、自分なりに作り変えたりなどしている。そして、どうしてシャボン玉が膨れるのか、どのような方法で膨れるのか、いろいろ試してシャボン玉を作っている。その経験をもとに5歳児になってからは、シャボン玉を膨らますだけでなく、シャボン玉液の性質を利用して、新たに自分で考えたことを試したり、工夫したりして遊びを創り出していた。そして、M児が発見したことが他の幼児にも広がり、他の幼児も自分なりに考えて遊ぶようになった。

このような2年間のシャボン玉遊びで、M児はいろいろと学んでいる。その学びができたのは、M児が「面白そうだな」「どうなるかな」など好奇心を示した際に、自分で納得いくまで、考えたり、工夫したり、試したりしながら十分にかかわることができていることが許されていたからである。本来「遊びにおける楽しさの源泉は、そこに自由が最大限にゆるされていることだろう。いつ遊びはじめてもよいし、いやになったらいつでもやめてよい。・・・中略・・・外側からの強制が強いと、好奇心は萎縮して働かなくなってしまう」²⁾(波多野, 稲垣, 1973)。また、自分が考えたことを認めてくれたり、一緒になってやってみてくれる友達や保育者がそばにいたこともM児の学びに大きく影響をしている。仲間認められたことにより自信をもち、また新たなことを考えたり発見したりする様子が多く見られる。そして、M児の遊びの取り組みが、他の幼児の遊びの刺激にもなっている。このようにM児の学びは、仲間との関係が大きく影響をしていることが分かる。

ところで、シャボン玉遊びはその時期が来たから設定するのではなく、いつから始めるのか、遊びのきっかけをどうするのかなど幼児の実態をしっかり見て設定することが必要である。そして、保育者はシャボン玉液をどうするか、どのような用具をいつ用意するか、子どもが今何に興味をもっているかなど、常に子どもの遊びの実態を見て環境設定をすることが重要である。また、遊びの中で、幼児の好奇心を持続させ、面白さがどこまでも追求できるような保育者のかかわりが大切になってくる。このことについて、太田(1999)は『『おもしろかった』『もっとやりたい』という達成感と意欲は、もっと自分でなんとかしてみたい、自分の力を試してみたいという自分自身身に対する関心、好奇心を生み、より高い達成感へつながる』³⁾と指摘している。そこで、保育者は常に幼児の遊びを見ながら、今必要として

いるものは何か、何を学んでいるのか、次の課題は何かを瞬時に判断し適切に対応していくことが必要になってくる。

このようにシャボン玉遊びは、幼児のもっている旺盛な知的好奇心を満足させ、自分自身に対するより高い達成感を感じることができる多くの要素をもった遊びである。ここにシャボン玉遊びを幼児教育において取り入れる意義があると考えられる。シャボン玉遊びの指導は、その遊びの要素を保育者が十分に理解して、子どもたちが考えたり試したりしながら面白さを追求し、多くのことを学んでいくことができるようにすることが大切である。

註

- 1) 笠間浩幸, 1997, 子供の「遊び」と「学び」, 初等教育資料11月号, No.677, 文部省, pp94-100.
- 2) 波多野誼余夫・稲垣佳世子, 1973, 『知的好奇心』, 中公新書
- 3) 太田光洋, 1999, 『保育で大切なこと』, ジオ・プレス

資料

事例1 M児が4歳児の時のシャボン玉遊び

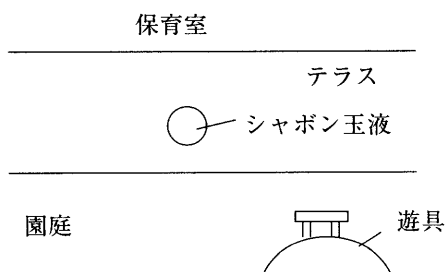
「・・・」は幼児の言葉が聞き取れない部分である。下線の部分は、M児が考えたり工夫したりした部分である。

幼児が遊びながら場を移動するため、環境構成に幼児の位置は記入していない。

事例1-① 6月12日(金) 晴れ

M児が手洗いに置いてあった手洗い用の石鹸で石鹸液を作り、ストローを材料棚から持って来て、シャボン玉遊びを始めた。それを見た他の幼児も興味をもち、それぞれストローを持って来て一緒に遊び出した。M児が作ったシャボン玉液の入った容器を囲んで座り、頭を寄せ合って遊んでいたの、子どもたちがどのように遊びを進めていくかを見守った。

<環境構成>



I児：ストローを6本持って、液をかき回してからストローを吹くがシャボン玉はできない。「出んわー、出ん」

T児, I児, A児, R児：ストローを液に突っ込んでかき混ぜている。

D児：みんなの後ろから手を伸ばして、ストローに液をつける。

T児：ストローを吹くがシャボン玉はできない。

H児：ストローを1本持って、みんなのすることを見ている。

Z児：ストローを5本持って、みんなの顔を見ている。

M児：4本のストローを束ねて持ち、液をつけてストローを吹く。シャボン玉はできない。

T児：先がスプーンのようにになっているストローを持っている。そのストローを吹くとシャボン玉ができる。「できたよ、ほら」とストローの先にシャボン玉がぶら下がっているのをうれしそうに見せる。

M児, I児：T児のシャボン玉がストローの先に付いているのを見て、自分の持っているストローでT児のシャボン玉を取る。M児のストローにそのシャボン玉が付いたので、I児がM児のシャボン玉を取ろうとする。

M児：シャボン玉を取られないように、「えー」と言いながらストローを後ろにする。

I児：「もうー」と少し怒ったように言う。

M児：「Iちゃんも作ったらいいが」

Z児：ストローを5本一緒に持って、液をかき混ぜている。

H児：液をつけてストローを吹くが、シャボン玉はできない。

Q児：ストローを持って来て、みんなの間に入って遊び出す。

T児：液をつけてストローを吹くとシャボン玉ができる。

I児：T児のシャボン玉を、ストローで取ってしまう。

T児：また、液をつけてストローを吹くとシャボン玉ができる。

I児：ストローを吹くがシャボン玉はできなかった。「もうー、みんな混ぜて」とストローでシャボン玉液をかき混ぜる。

T児：I児と一緒に液を混る。容器の中に泡がたくさんできている。

H児：みんなのすることを見ている。

T児：ストローを吹くとシャボン玉ができる。

M児：「今さっき、私、大きい飛んだわよ！」

R児：液をつけてストローを吹く。シャボン玉はできない。

I児：「ほんとうに？ 嘘つけ」
 M児：「ほんとうよ」
 I児：「嘘つけ」
 M児：4本のストローを束ねて液をつけて吹く。シャボン玉ができる。大きいシャボン玉に続いて小さいのが三つできる。
 H児：「すごい、・・・」立ち上がって言う。
 H児：「どうして、Mちゃんだけできるんだろう？」
 M児：「ストロー4本、4本よ」と指を4本出して、ストロー4本を一緒に吹いていることを言う。
 H児：「先生、どうして僕でできて・・・」
 T児：「今、ちっちゃいのが、1本だけ飛んだよ」
 M児：三つくっ付いたのができ、続いて小さいのができる。「私、できちゃった」とうれしそうに言う。
 I児：「じゃ、さっきのやっpegらん」とM児に言う。
 H児：「みんな出てこんで、Mちゃんだけ出てきたん？」と言いながらM児のところに歩いて来る。
 M児：「ははー、私できちゃった」「神様が、私に魔法をかけちゃった！」
 A児：ストローに液をつけ吹く。泡が落ちる。
 I児：「ええなー」とストローを吹くが、シャボン玉はできない。
 M児：4本束ねたストローに液をつけて吹くと、三つくっ付いたシャボン玉ができ、I児の方に飛んで行く。
 I児：「おー、おー」と言って見ていると、そのシャボン玉がI児の頭にくっ付く。
 M児、A児：「きゃー」と笑いながら、I児の頭に付いたシャボン玉をストローで取ろうとする。
 (場面転換)
 M児、I児、Q児、T児、H児：テラスで使って遊んでいたシャボン玉液の入った容器を持って、園庭の遊具（プラスチックの小山）の上でシャボン玉を膨らませている。
 I児：液の入った容器を持っている。
 液をつけてストローを吹く。うまく膨れない。
 I児：もう一度、吹くと小さいシャボン玉が続けてでき、風に飛んで行く。
 M児：ストローに液をつけて吹くと、小さいシャボン玉が続けてたくさんで風に飛んで行く。飛んで行くシャボン玉を見ている。
 M児：大きいシャボン玉がストローの先に付くと、ストローを上を持ち上げて、シャボン玉をストローから離して飛ばそうとする。
 T児：ストローに液をつけては、みんなと反対の方を

向いて膨らませている。

H児、Q児：みんなが膨らませているのを見ている。

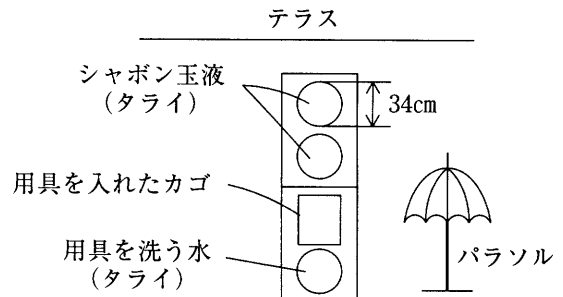
事例1-② 6月16日(火) 晴れ

15日からクラスのみんがシャボン玉遊びに興味をもち、M児を真似て自分でシャボン玉液を作って遊びが始まった。しかし、シャボン玉が膨れないと遊びをすぐに止める様子が見られた。そこで、担任がよく膨れるシャボン玉液を作り、園庭に遊びの場を設定した。その場でM児を中心にして遊びが始まった。

<環境構成>

シャボン玉液：洗濯用固形石鹸をぬるま湯で溶かし2、3日置いたもの

用具：曲がるストロー、太いストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）、曲がったストローなど



M児：糸巻き（細いもの）に液をつけて吹く。シャボン玉はできない。糸巻きの中をのぞいて「ヒヒヒ」と笑っている。

R児、S児：M児と同じ糸巻き（細いもの）を持って吹いている。

M児：糸巻き（細いもの）に液をしっかりとつけて吹く。大きいシャボン玉ができる。シャボン玉を手で受けようとするときシャボン玉が割れる。「わあー」とシャボン玉が壊れて落ちたところを見る。

I児：「どうして、これくっ付いて、できるのかな？」

M児：糸巻き（細いもの）に液をつけて吹く。糸巻きにくっ付いたシャボン玉に指を突っ込むとシャボン玉が壊れる。糸巻きの中をのぞいて膜がまだ張っているのを確かめて吹く。シャボン玉ができかけたので指を入れようとしたら、シャボン玉が壊れる。

B児、O児：ストローで吹いている。

M児：曲がったストローの両端を手で持ち、曲がっているところに液をつけて吹く。シャボン玉ができ、下に落ちる。

S児：M児が持っているのと同じ曲がったストローを持って、M児を見ている。M児を真似て曲がっ

た部分に液をつけて吹く。

B児：「これでも、できない」とストローを持って言う。

M児：曲がったストローの曲がっている部分に膜が張っているかどうか確かめて、膜が張っていないともう一度液につける。膜が張っているのを見て吹く。シャボン玉ができると「あーあ、あ」とうれしそうに言う。

S児：曲がったストローを持って、曲がったところに張った膜を吹く。

B児：糸巻き（細いもの）で吹いている。シャボン玉ができる。

M児：柄の付いた小さいプラスチックの輪を液につけ、膜が張っているか確かめて吹く。大きなシャボン玉ができ割れる。「シャボン玉の方に・・・」と言いながらシャボン玉が割れて顔に液が散ったのを手で拭う。

M児：ストローを折り曲げて三角にしたものを作り、液につけて吹く。シャボン玉ができると「わあー」とうれしそうに左右に何度も飛び跳ねる。

T児：ストローを折り曲げて三角を作ろうとしている。

R児：M児を見て、うれしそうに笑っている。

M児：三角のストローを液につけて、手で持ってぐるりと回る。シャボン玉ができると「わあー！」とうれしそうに何度も飛び跳ねる。

I児：「飛んだ、飛んだ」

M児：もう一度、三角のストローを液につけ、手に持って回る。シャボン玉ができないと三角のストローの中の膜を見る。

M児：三角のストローに液をつけ口で吹く。シャボン玉ができると「わあー」と指差して喜ぶ。

M児：三角のストローに液をつけて、手に持って大きく振る。少し長めのシャボン玉ができると「おーおー」と驚いた様子で飛び上がる。

M児：三角のストローに液をつけ、口で吹く。シャボン玉ができなかったので、飛び上がりかけてやめる。

M児：三角のストローに液をつけて吹く。小さいシャボン玉ができかけて壊れると、その場で小さく回る。

T児：ストローを三角に折り曲げようとしていたが、六角形のような形になる。

M児：三角のストローに液をつけて、手を高く上げて回る。シャボン玉が二つできると「おー」と喜び、もう一度、反対に回る。シャボン玉ができなかったので「えー」と頭に手をやり、はじめにできたシャボン玉が落ちたところを足で何回も踏む。

T児：六角形のストローを液につけシャボン玉を作る。

M児：三角ストローに液をつけ口で吹く。シャボン玉ができないと足踏みをし、また液をつけに行く。

M児：三角のストローに液をつけ、膜が張ると膜に指を入れる。

膜が割れると「おー」と足踏みをする。

M児：三角のストローに液をつけ吹く。シャボン玉ができないともう一度液をつける。

O児：糸巻き（先が開いたもの、細いもの）を4個つないで、液をつけて吹く。

R児：太いストローに液をつけて吹く。

T児：四角にしたストローを持って、もう1本ストローを取って持って行く。

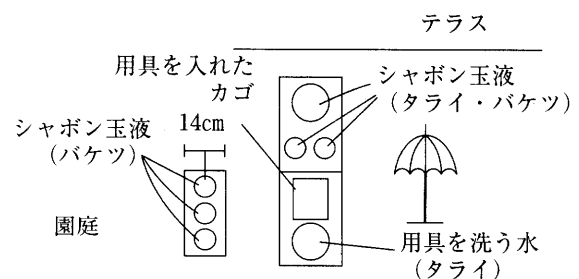
M児：曲がるストローを持って三角にしている。曲げたストローを伸ばす。ストローの片方の先を折り曲げてセロテープで貼ろうとしている。手が液で濡れていたため、自分の服で手を拭いてからセロテープを切り取り、ストローにぐるぐる巻きつけて貼る。できあがると保育者にうれしそうに見せる。

M児：できあがったストローを口で吹き、空気が自分の方に来ることを確かめて、うれしそうに保育者の方を向いて笑う。自分の顔を指差し、「自分のところ」と喜んでいる。自分に向かってシャボン玉ができると考えている。液につけてシャボン玉を膨らまそうとする。

事例1-③ 6月17日（水）晴れ

<環境構成>

用具：曲がるストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒など



M児：手のひらを丸く筒状にして液につけ、膜が張っているのを確かめて吹く。大きなシャボン玉ができる。

U児：糸巻き（細いもの）で吹く。大きいシャボン玉ができ、下に落ちる。

- W児：みんなのそばに寄って来て、間に入って見ている。
- R児：太いストローで吹いてシャボン玉を作る。
- S児, I児：M児を見てM児と同じように手を丸く筒状にしてシャボン玉をする。大きいシャボン玉ができる。
- M児：「ない時は、手でできる。ほんとうはね」と言いながら、液の入っているバケツに両手をつけている。手を丸くして、膜ができていくかどうかのぞいて確かめてから吹く。大きいシャボン玉ができ下に落ちる。「あーら、落ちちゃった」
- M児：両手を液の入ったバケツにつけている。「あーら、プチン、あら、プチン」
- I児：「あらプチン、あらプチン」とM児を真似て言う。
- M児：手のひらを筒状にして吹く。大きいシャボン玉ができ下に落ちる。続いて吹くとまたできかけるが、吹くのを止めると手の中に吸い込まれる。「あー」と笑う。まだ、膜が張っているかどうか確かめて手を体の横で振る。シャボン玉ができなかつたので、吹いてみる。大きいシャボン玉ができたので「あー」と喜ぶ。
- R児：太いストローで吹く。「入った」と目の横を手でこすっている。
- U児：W児に何か言いながら、たたこうとして手を挙げる。糸巻き（細いもの）を液につける。
- U児：怒った顔をして液の入ったタライを持って行く。
- W児, Y児, R児：U児を見ている。
- M児：両手を液の入っているバケツの中に入れて、手に液をつける。両手を丸くしてくっ付け輪にして吹く。一つだけシャボン玉ができる。
- S児：曲がったストローをバケツの中に入れて吹き、バケツの中にシャボン玉を作る。M児の肩をたたき「Mちゃん、見て」と言う。
- Y児：四角にしたストローを液の中につけている。
- T児：M児を真似て、手でシャボン玉を膨らます。「できたー」と手に大きなシャボン玉がぶら下がっているのをM児に見せる。「Mちゃん見て、Tちゃんなー、これ見て」とM児の前に手を伸ばす。
- M児：S児がバケツの中に作ったシャボン玉を両手ですくっている。T児がシャボン玉を見せているのに気付かないですくったシャボン玉を持って行く。
- T児：M児に見てもらえなかつたので、保育者に手ぶら下がったシャボン玉をうれしそうに見せる。

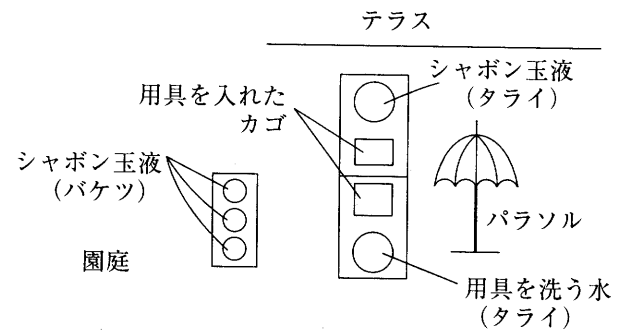
事例1-④ 6月18日（木）晴れ

遊びの状況に応じて、担任が用具を少しずつ増やし

ていった。子どもたちがいろいろ工夫して用具を作ることができるように、廃材なども自由に使えるようにしておいた。

<環境構成>

用具：曲がるストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯など



- M児：長い筒に液をつけ、手で持って3回ぐるぐる回る。シャボン玉がたくさんできる。筒の中をのぞいて、吹いてみるができない。筒と腕を交差してバツにする。
- G児：長い筒を持って来る。筒に液をつけ筒の中をのぞいてから吹く。
- M児：長い筒を液につけ、何度もとんとんとさせてしっかりと液をつけている。筒を持って4回ぐるぐる回る。たくさんのシャボン玉ができるとケンパ、ケンパとしながらうれしそうに飛び跳ねる。
- S児：糸巻き（先が開いたもの）を吹く。シャボン玉がたくさんでき飛んで行く。シャボン玉を追いかけて足を上げる。
- R児：長い筒を持って来る。液につけ吹く。
- M児：長い筒にしっかりと液をつけ、筒を持って3回ぐるぐる回る。たくさんのシャボン玉ができる。ふらつくと「目が回った」と言う。
- N児：ラーメンカップに穴を開けたものを液につけて吹く。

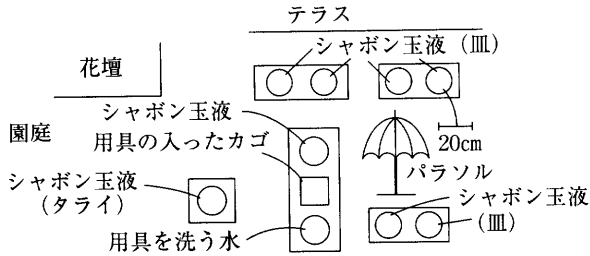
事例1-⑤ 6月25日（木）晴れ

それぞれの子どもたちが、いろいろと考えたり工夫したりして遊ぶようになってきたので担任が遊びの場を広くした。用具もいろいろな種類のを下記のように用意した。

<環境構成>

用具：曲がるストロー、糸巻き（プラスチック製、細いもの）、糸巻き（プラスチック製、先が開いたもの）、プラスチックの小さい輪（柄の付いたもの）

の), 曲がったストロー, 太いストロー, 紙の長い筒, セロテープの芯, ガムテープの芯, プラスチックの大きい輪 (柄が付いたもの), プラスチックの大きい輪 (中に小さい輪がある, 柄がついたもの) など



- M児：プラスチックの大きい輪 (中に小さい輪がある) を持って「あーあーあー」と言いながら3回ぐるぐる回る。たくさんのシャボン玉が続いてできる。
- A児：プラスチックの大きい輪に液をつけて吹き, 大きなシャボン玉を作る。
- U児：プラスチックの大きい輪に液をつけ, 輪を揺らす。シャボン玉ができるがすぐに壊れる。
- M児：プラスチックの大きい輪 (中に小さい輪がある) に液をつけ, それを持って大きく手を動かす。たくさんのシャボン玉ができる。三つくっ付いたシャボン玉が飛んで行くのを見ている。
- A児, U児：M児のシャボン玉が飛んで行くのを見ている。
- M児：シャボン玉が遠くまで飛んで行くのを追いかけて「わあー」と言いながら飛び上がって見ている。
- M児：また, プラスチックの大きい輪 (中に小さい輪がある) に液をつけ大きく腕を動かす。シャボン玉が飛んで行くのを見ている。
- A児：プラスチックの大きい輪に液が入っている容器から持ち上げる時に風が吹き, ひとりで大きなシャボン玉ができる。
- U児：プラスチックの輪に液をつけ, 輪を上上げて動かす。シャボン玉ができる。
- M児：プラスチックの大きい輪 (中に小さい輪がある) を持って体の回りで動かす。5~6個シャボン玉ができ飛んで行く。飛んだシャボン玉を持っていたプラスチックの大きい輪 (中に小さい輪がある) で「わあー」と言って受け取ろうとする。
- M児：プラスチックの大きい輪に液をつけて膜を張り, 振ると巨大なシャボン玉ができる。「わあー, わあー, わあー」と大喜びをして足踏みをする。
- Y児：プラスチックの大きい輪に張った膜を指で触って

いる。

- M児：プラスチックの大きい輪に液をつけて口で吹く。10個くらい続けてシャボン玉ができたので「わあー」と言って驚く。
- I児：プラスチックの輪に膜を張り, ゆっくり持って歩いて行く。
- M児：プラスチックの大きい輪に液をつけ, 上からゆっくり下に降ろす。できたシャボン玉を「わあー」と言いながら追いかける。
- M児：もう一度, プラスチックの大きい輪に液をつけ, 上からまっすぐに下にゆっくり降ろす。
- M児：プラスチックの大きい輪に液をつけ, 容器から持ち上げると風が吹き, ひとりで大きなシャボン玉ができ, 壊れる。じっと見ている。
- M児：プラスチックの大きい輪に液をつけ, 上からまっすぐに下にゆっくり降ろす。シャボン玉ができるがすぐに壊れる。
- U児, Y児：プラスチックの大きい輪で, 何度も液をつけ輪を動かしてシャボン玉を作る。
- K児：みんなが遊んでいるのを見ている。
- M児：プラスチックの大きい輪に液をつけ, 輪を持ち上げようとした時に膜が割れる。もう一度液をつけ, 上に持ち上げて動かさないで持っている。風が吹いてシャボン玉ができる。大きいシャボン玉が上に飛んで行くのをじっと見ている。まだ膜が張っていたので輪を振る。
- I児：プラスチックの大きい輪に液をつけて, 輪を動かす。
- (場面転換)
- M児：ペチュニアの花を花壇から取って来て, 花をストローのようにしてシャボン玉液をつけて吹く。小さいシャボン玉ができる。N児がそばで大きいペチュニアの花で膨らしているのを見る。
- K児：M児と同じようにペチュニアの花で膨らす。小さいシャボン玉ができる。できたシャボン玉を手で受ける。
- M児：みんながするのを見て, もう一度花に液をつけて吹いてみる。シャボン玉ができると「わあー, やっぱりできた!」と喜ぶ。
- Y児：花を持って見ている。
- M児：Y児が持っている花を取って「あー, あのね穴が開いてないからよ」と花のガクの部分を示す。「穴の開いたの, 見付けてあげるからおいで」とY児の手を引いて花を探しに行く。
- ペチュニアの花を取って来る。
- Y児：花に液をつけて吹く。花びらがくっ付いてうま

く膨れない。花びらを手で離そうとしている。花びらが開くと口にくわえて吹く。

M児：小さいペチュニアで吹く。小さいシャボン玉ができる。「やっぱり、できたー」と喜ぶ。

M児：もう一度、花に液をつけて吹く。うまく膨れない。

M児：「これでもできるかな?」「先生、これじゃできるかな?」とそばの花壇に植えてあった朝顔の花を見つけて取る。朝顔の花に液をつけて吹く。できなかったの、もう一度液をつけて吹いてみる。シャボン玉ができる。「わあー、できた!」と喜ぶ。

S児：「私にも、花ちょうだい」

M児：N児がそばにいるのに気が付いて「Nちゃん、これ貸してあげる」と朝顔の花を渡す。

実践例2 M児が5歳児の時のシャボン玉遊び

アルファベット小文字は4歳児名である。

「・・・」は幼児の言葉が聞き取れない部分である。

下線の部分は、M児が考えたり工夫したりした部分である。

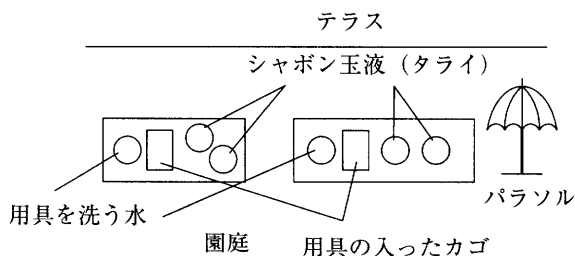
幼児が遊びながら場を移動するため、環境構成に幼児の位置は記入していない。

実践例2-① 6月15日(火) 晴れ

4歳児が石鹼液でシャボン玉を始めたのをM児が見て、自分が昨年経験した方法でシャボン玉をして、4歳児に見せていた。シャボン玉がよく膨れないと、M児が考えたことができないため、よく膨れるシャボン玉液を担任が用意し環境を設定した。

<環境構成>

用具：曲がるストロー、糸巻き(プラスチック製、細いもの)、糸巻き(プラスチック製、先が開いたもの)、プラスチックの小さい輪(柄の付いたもの)、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯など



M児：手にシャボン玉液をつけ、ストローで手のひらの上にシャボン玉を作る。大きく膨らんだシャボン玉の中にストローを入れて二重にシャボン玉を作る。「よーし、できた。これ」と保育者に

見せる。二重にできたシャボン玉の乗っている手をぎゅっと握る。シャボン玉が一つぶら下がる。その手を上に持ち上げて見る。シャボン玉がブラブラして壊れる。

U児：M児と同じように、手のひらの上でストローを吹いて、シャボン玉を作る。

F児：曲がったストローを吹いてシャボン玉を作っている。

M児：手のひらに泡が付いていた中にストローを入れて吹く。シャボン玉ができると二重にシャボン玉を作ろうとしてストローを中に入れる。シャボン玉が壊れる。「わあー!」と言う。

F児：シャボン玉液の入っている洗面器をストローでかき混ぜている。

M児：液の中に手を入れて、しっかりと手に液をつける。指を付けて長い輪を二つ作り交互に吹く。シャボン玉が一つだけできる。

M児：手に液をつけて両手の指を付けて大きな輪を作り吹く。大きなシャボン玉ができる。

M児：片手の指で輪を作り吹く。長いシャボン玉ができ飛んで行く。

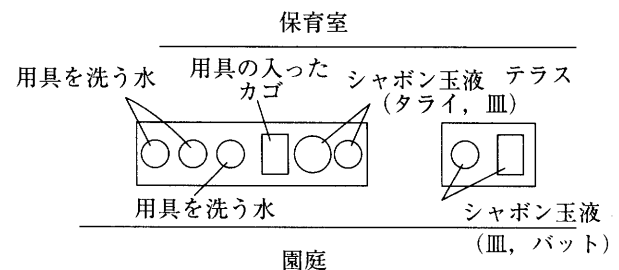
M児：両手をこすり合わせ液をしっかりとつけ、両手の指を開いて4本の指先を付け、指の間に張った膜を吹く。長い大きなシャボン玉ができる。

実践例2-② 6月18日(金) 雨

昨年の経験を生かして遊べるように、いろいろな用具を担任が用意し、環境を設定した。

<環境構成>

用具：曲がるストロー、糸巻き(プラスチック製、細いもの)、糸巻き(プラスチック製、先が開いたもの)、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯、プラスチックの大きい輪(柄が付いたもの)、プラスチックの大きい輪(中に小さい輪がある、柄が付いたもの)など



M児：D児が、膜が張っているプラスチックの大きい輪を持っている。その輪の中にM児が手を突っ込んで膜が壊れないように手を抜く。膜が壊れなかったので「ほら!」と言う。

M児：「やってあげようか、魔法の鏡」と言いながら手にしっかりと液を塗っている。

D児：膜が張ったプラスチックの大きい輪を「魔法の鏡」と言いながらM児に差し出すと、M児はゆっくり手を膜の中に入れる。肘の辺りまで入れて抜こうとすると膜が壊れる。M児は「ほらね、できたよ」とうれしそうに言って跳ぶ。

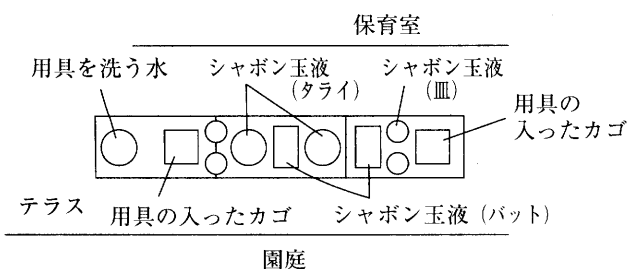
M児：膜が張ったプラスチックの大きい輪を自分で持って、液をつけた指を膜の中に入れ5本の指を動かして見る。壊れないのを確かめて指を抜く。抜いた指に膜が張っているのを見て吹く。

M児：膜が張ったプラスチックの輪を両手に持ち、そっと吹く。二つの膜がくっ付きそうでなかなか付かない。プラスチックの輪の一つの膜が壊れる。そばで見ているa児が「わあー」と驚く。膜が張っているプラスチックの大きい輪をa児に渡す。

実践例2-③ 6月19日(土) 雨

<環境構成>

用具：曲がるストロー、糸巻き(プラスチック製、細いもの)、糸巻き(プラスチック製、先が開いたもの)、プラスチックの大きい輪(柄が付いたもの)、プラスチックの大きい輪(中に小さい輪がある、柄が付いたもの)、プラスチックの小さい輪(柄が付いたもの)、曲がったストロー、太いストロー、紙の長い筒、セロテープの芯、ガムテープの芯など



M児：膜が張ったプラスチックの大きい輪をM児とk児がそれぞれ持っている。k児が「もう一回やろう」とM児に言う。M児「うちが、吹くです」と言って向き合っている。プラスチックの大きい輪の膜をM児が吹くと膜がつながる。引っ張って離すと膜が壊れないで離れた。「わあー、できた」と喜ぶ。

k児：「先生、・・・」とうれしそうに言う。

k児：「もう一回、やってもいい」とうれしそうに言う。

M児、k児：膜が張ったプラスチックの大きい輪を持ち、二人で向き合う。M児が、そっと吹き膜が

つながる。お互いに引っ張って膜を離す。うまくいくとk児が「すごいでしょ!」と保育者に言う。

k児：壊れなかった膜を口で吹く。シャボン玉ができ飛ぶ。

M児：壊れなかった膜が張っているプラスチックの大きい輪を振る。膜が壊れる。「壊れちゃった」と言う。

M児、k児：k児が作ったシャボン玉が飛んでいるのを一緒にプラスチックの大きい輪で取ろうとする。「わあー、ははは」と二人で笑う。

L児：膜が張ったプラスチックの大きい輪の中にもう一つシャボン玉を作る。保育者に見せる。

D児：プラスチックの大きい輪に張った膜の上に、糸巻き(先が開いたもの)で吹いてシャボン玉を作り、くっ付けようとする。

J児：D児がしているのを見ている。

P児：プラスチックの大きい輪を液につけながらD児を見ている。

T児：プラスチックの大きい輪(輪が二重になったもの)とプラスチックの大きい輪を2本持って、それぞれ膜を作り交互に吹く。

y児：セロープの輪を液につけ、膜が張ると吹く。

r児：プラスチックの大きい輪を液につけながら、M児を見ている。

M児、k児：膜の張ったプラスチックの大きい輪を向き合って持つ。M児がそっと吹きながら二つの輪をくっ付ける。「なくなっちゃいましたね」と言って輪を離す。膜が壊れないで離れる。「また、できた」と二人ともうれしそうに笑っている。M児「これが、ほんとの・・・」と言いながらプラスチックの大きい輪を大きく振る。k児「きゃきゃー、消え・・・」とM児の方を笑って指差す。

r児：膜の張ったプラスチックの大きい輪を強く吹き、膜にたくさんのシャボン玉を付ける。プラスチックの大きい輪に三つシャボン玉がくっ付き飛んで行く。

M児：「はい、今のうち」と急いでプラスチックの大きい輪を液につけ膜を張る。

k児：M児と同じように「今のうち」と言ってプラスチックの大きい輪を液につけ膜を張る。

k児：「もう一回やろう」とM児に言う。

M児：k児と向き合って、膜が張ったプラスチックの大きい輪を持ってくっ付けて離す。壊れないで離れ、小さいシャボン玉ができ下に落ちる。「ほらね」と下を見ている。もう一度、二人で向き合ってそっと膜を吹き、膜をくっ付けてから、

引っ張って離す。膜が壊れないで離れる。小さいシャボン玉が下に落ちる。y児が見てそれを拾おうとする。もう一度二人でプラスチックの大きい輪をくっ付ける。k児「・・・」引っ張って離す。膜が壊れないで離れる。M児の膜に小さいシャボン玉が付いている。

k児：「あっ、Mちゃんの」とM児の膜に小さいシャボン玉が付いているのを見て指差す。y児が見て笑う。

M児：膜に付いている小さいシャボン玉を指で触ると割れる。「わぁー！」と言う。

M児：k児と膜が張ったプラスチックの大きい輪を交差させる。膜が壊れない。「壊れない」と驚く。交差した面を一つずつ吹いて、シャボン玉を作る。シャボン玉がk児の顔の方にできて割れるので、顔をよけながら喜んで笑う。

y児：「やって」とプラスチックの大きい輪に膜を作って、M児のところに持って来る。

M児：自分のプラスチックの大きい輪を液につけ膜を張り、プラスチックの大きい輪を持ったy児の手を取り交差させて、面を順に吹く。y児の顔の方にシャボン玉ができ壊れる。「わぁー」とy児は笑いながら顔を背けようとする。

M児：また、同じようにy児とプラスチックの大きい輪を交差させて吹く。y児の顔の方に、シャボン玉が伸びる。y児「わぁー」と言う。

T児：プラスチックの大きい輪に張った膜にプラスチックの糸巻き（先が開いたもの）を吹いてシャ

ボン玉を作って付ける。大きなシャボン玉がプラスチックの輪に付き、一つのシャボン玉になる。続けて糸巻きを吹き大きなシャボン玉にする。糸巻きをそっと離しプラスチックの輪に付いているシャボン玉を見る。シャボン玉がゆらゆら揺れる。手を伸ばそうとしてシャボン玉にあたり、シャボン玉が割れる。プラスチックの輪に膜くだけ残る。膜が張ったプラスチックの輪を上を動かすと膜が壊れる。

D児：糸巻き（先が開いたもの）を吹いてシャボン玉を作り、プラスチックの大きい輪に張った膜に付け、吹くと壊れる。もう一度膜を張って糸巻きを近づけて吹く。シャボン玉はできないで糸巻きが張った膜にくっつく。糸巻きをゆっくり引っ張って膜から離す。膜にシャボン玉が付いた形になる。糸巻きの中をのぞいて見る。膜が張っていたので糸巻きを吹く。すぐに膜が壊れる。糸巻きでプラスチックの輪の膜に付いているシャボン玉を取り出して糸巻きを吹く。大きなシャボン玉になる。プラスチックの輪の中に入れて吹くとシャボン玉がプラスチックの輪に付く。糸巻きを抜いてもシャボン玉が壊れないので、また糸巻きを付けて吹く。糸巻きを離し、膜が糸巻きに張っているのを見てから吹くと膜が壊れる。また、プラスチックの輪に入れて膜を取って糸巻きに膜を張り吹くが、できなかったので糸巻きをのぞいて見る。